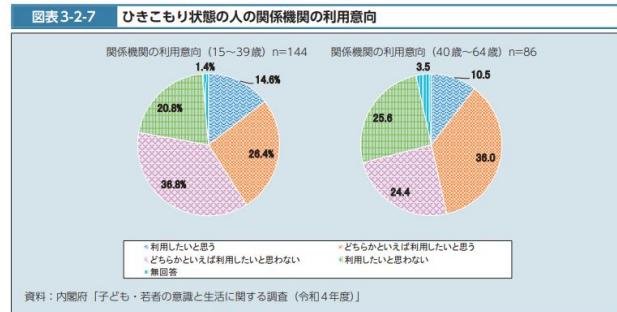


誰一人取り残さない 世田谷をつくろう

～健診未受診者データと保険料・税金滞納・生活困窮データ・公共施設利用等を組み合わせたスコアリング手法の提案～

背景・課題 データが示す現実:「助けて」と言えない人々

行政の課題の一つは、支援が必要な人ほど「自ら窓口に来られない」という現実です。今回の区民調査の統計からも行政に対して不信感を抱いている層が孤立しやすいことがわかります。孤立・孤独感を感じている人の多くが行政や専門機関に相談していないことが明らかになっています。



孤立スコアとは

国保健診未受診、保険料滞納、公的施設・福祉サービス未利用などの各部署間のデータを数値化し、複数データを組み合わせてスコアリングします。合計点で孤立・困窮リスクを把握し、重点支援対象者を早期に抽出可能です。客観性と精度を高めることで、部署間横断的な行政支援につなげます。

孤立スコアの3つの出来る事

- ・客観性があって、緊急度の把握、スコアによって深刻の度合が分かる
- ・属性の把握、説明変数によって孤立している方の属性のイメージがつきやすく担当部署の連携、方針が立案を行いやすい
- ・助けてを言えない人をキャッチできる

基準値 (定数)	配偶者 有無	性別	年齢	職業	家族 形態	住居 形態	現在の 暮らし	歩行 時間	住みや すさ
2.52	-4.12	-0.29	0.15	-0.09	-0.12	0.2	-0.18	0.01	0.27

それぞれの係数×値を足し合わせる

社会的孤立スコア(= 孤立している確率)

データが織りなす誰一人取り残さない未来

「ハードな孤立(経済困窮)」だけでなく、「ソフトな孤立(つながりの欠如)」もデータでキャッチ。行政と地域が一体となったセーフティネットが、転ばぬ先の杖として区民の暮らしを支え続けます。